

お知らせ

令和8年3月6日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

中国地整担い手確保 **アクションプラン**



第4弾 「中国地整インフラDX推進計画2026」を策定 ～業務の効率化・現場の生産性向上を加速～

- 現在、建設業界では、災害・老朽化対策による需要拡大や、深刻な人手不足により、建設現場の生産性向上が急務です。
- こうした状況を踏まえ、中国地方整備局では、2022年から「中国地方整備局インフラDX推進計画」を策定し、2025年度までの間を「1stステージ」として81の取組※を進めてきました。
※「中国地整インフラDX推進計画2025」策定時の取組数
- 今般、2026(R8)年度から新たに“2ndステージ”へ昇華させ、「5年後の目指す姿」を定めた「中国地方整備局インフラDX推進計画2026」を策定しました。
 - 2ndステージで目指すべき姿（5年後(2030年度)迄の目標）
 - 「中国地整業務の生産性向上」：**仕事のやり方を5割変革し、新たな時間を創出**
：**災害対応や TEC-FORCE の支援を変革**
 - 「建設現場の生産性向上」：**2029年度に生産性10%の向上**
- 引き続き、本推進計画に基づき、取組を着実に進めて参ります。

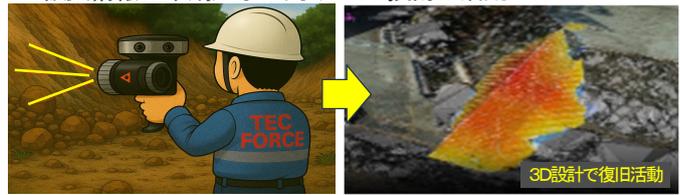
【取り組みの事例】

■中国地整業務の生産性向上に向けた取り組み

▼業務の効率化に向けたAIの高度利用



▼被災情報の早期入手に向けたDX技術の活用



■建設現場の生産性向上に向けた取り組み

▼オートメーション化に向けた遠隔操作機械の活用



▼設計段階から施工合理化



※「推進計画」の詳細内容は、中国地整HPの関連サイトへ

⇒ <https://www.cgr.mlit.go.jp/kikaku/dxplan/index.html>

< 問い合わせ先 >

中国地方整備局 082-221-9231 (代表)
企画部 建設情報・施工高度化技術調整官 岸本 孝文 (きしもと たかふみ) (内線 3132)
企画部 技術管理課 建設専門官 宮地 誠 (みやじ まこと) (内線 3220)

- 中国地方整備局では、2022年度に「中国地整インフラDX推進計画」を策定し、2025年度までの4ヶ年を通じて、①中国地整が行う業務の効率化に資する81の取組と、②建設現場の生産性向上に資する取組を推進してきました。
- 2026年度からの5カ年を新たに2ndステージと位置づけ、①AIの活用等による業務の大幅な効率化と、②i-Construction2.0の実現に向けた取組を集中的に実施し、真のデジタル・トランスフォーメーションへの昇華を目指します。

中国地整業務の効率化

- “1stステージ”では、デジタル技術を活用した、河川流量観測の自動化、道路出張所業務の高度化、汎用的な業務への生成AIの試行、窓口業務のオンライン化など、**多岐にわたる81の取組**を実施。
- “2ndステージ”では、生成AIやシステムの導入、通信技術を活用した情報共有化など、業務を効率化する16の取組を集中的に実行し、**定型業務に費やす時間の5割削減を目指すなど、業務のトランスフォーメーションを実現。**

【概要】

○生成AIやシステムの導入により定型業務を効率化

- ・議事録作成にAIを活用
- ・勤務時間管理にシステムを活用 など

○通信技術を活用した情報共有化

- ・TEC-FORCE活動をバックオフィスで支援
- ・「先遣飛行隊」(ドローン)で被災状況の早期把握
- ・遠隔操作システム付車両の導入で迅速な災害復旧

○職員のDXリテラシーを向上

- ・DX技術が使える職員を育成のため、若手～管理職迄の全職員を対象とした、i-Con等の演習を主とする研修を実施

【期待される効果】

- WLBの向上による活気のある職場の形成
- 自主的な研鑽によるスキルアップの促進
- 全職員のDX技術の理解度向上

➡ 定型業務に費やす時間を5割削減



建設現場の生産性向上

- “1stステージ”では、ICT活用工事実施件数の拡大を進め、**建設現場での生産性向上**に取り組んできた。
- 将来の建設従事者の減少が予測されるなか、持続的なインフラ整備・維持管理を実施するためには、**更なる生産性向上が急務**。
- “2ndステージ”では、i-Construction2.0の実現に向け、施工のオートメーション化に向けた取組や施工の効率化を追求する設計などの取組により、**2029年度(R11)に生産性10%向上を目指す**。

【概要】

○施工の効率化を追求した設計を実施

- ・直接形状で設計 (道路線形に依存せず効率化)
- ・プレキャスト工法適用拡大

○ICT活用工事の原則化や複数工程でのICT活用を推進

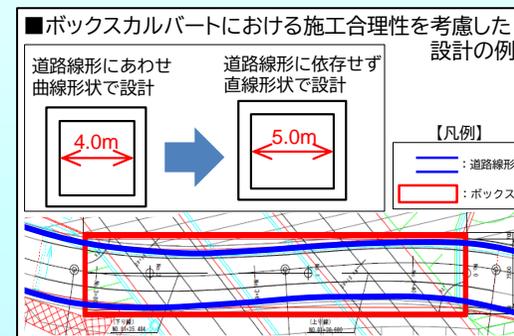
○遠隔施工の試行工事を導入

○BIM/ CIM等、測量から設計・施工・維持管理まで3次元データ連携の推進

【期待される効果】

- 全ての工事でICT施工をあたり前に行う環境創出
- 設計段階から効率的な施工環境の創出

➡ 生産性10%向上



■遠隔操縦機械の操作状況

